「ごみゼロアイランド対馬」を目指して－①

　対馬市ではこのほど、SDGｓ未来都市としてごみをゼロにしようという取り組みをスタートさせ、ごみゼロアイランド対馬宣言を行いました。世界中にあふれるごみが世界的な問題としてクローズアップされる今、対馬に住む私たちができることは何なのかを考え、行動することが求められています。

　今月号と来月号の2回にわたり、現在、対馬が抱えているごみの問題点と、解決に向け始まっている取り組みをご紹介していきます。

ごみゼロアイランド対馬宣言

　世界は今、大量生産と大量消費の結果として、多くのごみであふれています。ごみの運搬や焼却処理には多額のコストを必要とし、地球温暖化の原因となる温室効果ガスも大量に排出します。また、海に流れ出たごみは、美しい海岸景観や観光振興を阻害するだけでなく、ウミガメ等の野生動物の生態系、魚介類を通じて摂取したマイクロプラスチックによる人体への影響も懸念されています。SDGs 未来都市である対馬市は、対馬、日本、そしてこの地球の美しい自然を未来へつなぐため、ごみをゼロにしていく不断のチャレンジをここに宣言します。

　対馬市ではこの宣言に係る取組として、対馬市 SDGs アクションプランに基づきながら、市民、地域団体や企業等と連携し、4R（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）のさらなる推進、ごみのポイ捨てや不法投棄の防止等を実施し、「島内で生じるごみ」と「島外から流れつく海ごみ」の両方のアプローチからごみの発生抑制に努めます。

令和4年6月14日

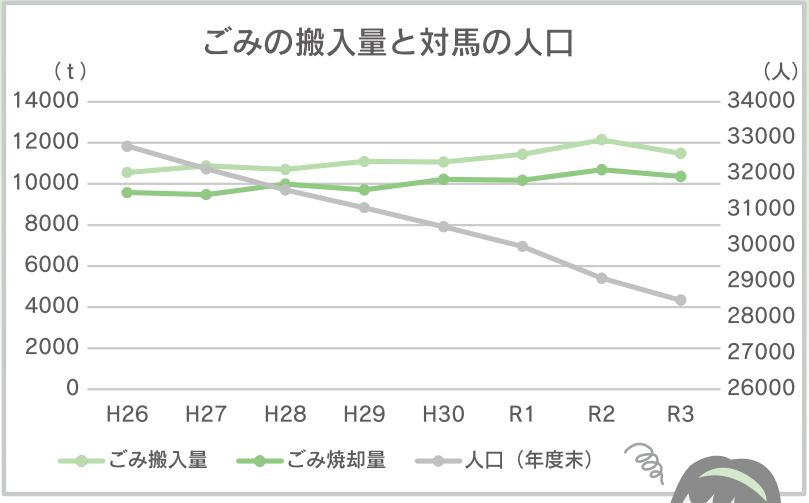
対馬市長　比田勝尚喜

対馬市議会議長　初村　久藏

SDGs Future City
Tsushima Island

人口が減少しても増え続けているごみ

このグラフは、対馬の家庭などから出され、処理施設に運び込まれるごみの量と対馬の人口を比較したグラフです。段々と人口が減っているのにも関わらず、ごみの量は増えているのです。



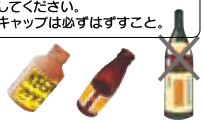
生活していれば、必ずごみは出るし、こうやって増えているのなら、なおさらごみをゼロにしようというのは無理なんじゃないの？

緑色の指定袋　資源ごみで出すもの（8品目に分別）

缶類（アルミ缶・スチール缶）
飲料用の空き缶だけに限ります。缶は潰さないようにお願いします。

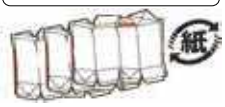
ペットボトル
飲料用のペットボトルに限ります。ラベル・キャップは必ずはずすこと。ペットボトルは潰さないようにお願いします。

びん類
飲料用の5合びんまでの空きびんです。
※一升びん・洋酒びんは不燃物で出してください。
※キャップは必ずはずすこと。



白色トレイ類
異物をきれいに洗い流し、干して乾かすこと。
なお、変色したもの・汚れのひどいものは可燃ごみで出すこと。

紙パック類
よく洗って水切りし、切り開いて乾かす。
キャップ付きは切り取る。 中が加工してあるものは、可燃ごみで出すこと。



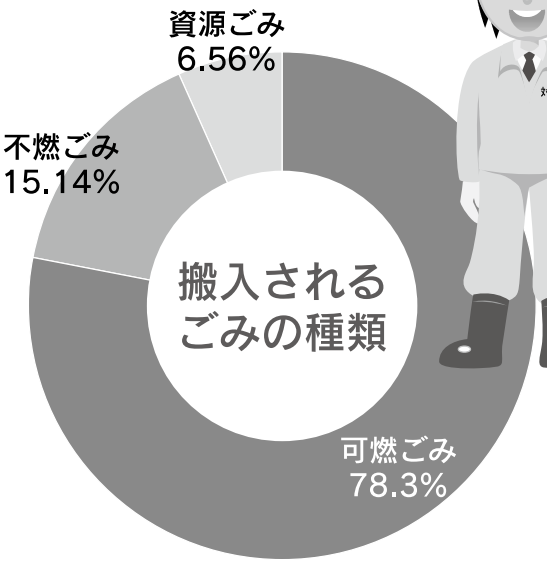
段ボール類
発泡スチロール・止金具・粘着テープ・送り状は取り除くこと。

古紙類（新聞紙）

古紙類（本類・雑誌類・チラシ類）

新聞紙と雑誌類は別々の袋に入れること。

それぞれ別々の袋に入れてください。



現在、対馬市では、可燃ごみや不燃・有害ごみとは別に、8品目のごみを資源ごみとして回収しているのですが、ほとんどが可燃ごみとして各家庭から出されています。**使い終わった容器や古紙などを、資源ごみとしてリサイクルできる状態で出すことで、結果的にごみを減らすことになる**のでご協力をお願いします。

ペットボトルや紙パックなど、可燃ごみとして出すこともあるので、きちんと分別して、可燃ごみを少なくすれば、ごみは減っていくということね！

「資源ごみ」が「資源」になるまで

空き缶の選別作業

汚れたもの、吸い殻などが入ったものを取り出します

島外へ搬出

この写真は、資源ごみとして出されたごみをチェックしているところです。資源にするために、汚れているものや他の素材が入っているものなどを分けているのですが、手作業でとても手間がかかります。

せっかく資源ごみを出しても、**空き容器の中にごみが入っていたり、汚れていたりすると資源として再利用することができません。**そうなると「資源ごみ」は「ごみ」のままになってしまうので、市民一人一人の心がけで、ごみが生まれ変われるよう手助けして欲しいのです。

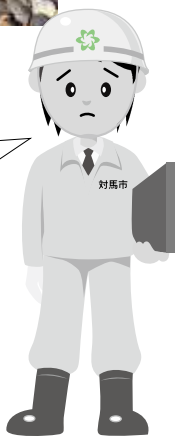
きれいに分けられたものはブロック状に圧縮され、島外へ運ばれて資源として再利用されます。

捨てれば「ごみ」生かせば「資源」の気持ちを持って、ごみの分別に取り組みましょう！

対馬に多量に押し寄せる「海ごみ」

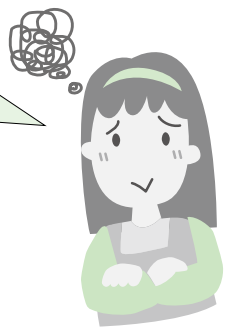
海岸を埋め尽くす海ごみで、美しい対馬の海が台無しです！捨てた人たちは、責任を持って片付けて、元通りにして欲しいです。海ごみは外国から流れ着いているのですよね？

確かに、対馬に流れ着くごみの中には外国のものが多いです。しかし、**日本のしかも対馬から出たごみもたくさんあるのです。**山の中や道路の脇の見えないところには、空き容器から家電まで、誰かが捨てたごみがたくさん落ちています。これらのごみが雨で流され川から海へと流れ出し、対馬や他の地域の海岸に流れ着いているのです。



この地図は、不法投棄のパトロールを行ってごみを見つけた場所をあらわしていて、写真のように確認されています。このように島のいたる所にごみがポイ捨てされている現状となっていて、今年５月から、回収したごみの量を測ってみたところ、たった２か月ほどで800kgを超えるごみを回収しています。

海ごみは、他人のせいだとばかり思っていたけど、島の中の大量のポイ捨ては、私たちの問題。私たちは被害者でもあり、加害者でもあるのですね…。



このままでは、島の中も、島の周りの海もごみであふれてしまいます。そうならないためにも、ごみゼロアイランド対馬宣言を行って、その流れを変えていこうとしています。

世界規模の環境問題は、対馬に住む私たちにとってはどこか遠いところの出来事のようです。しかし、普段私たちが出すごみやポイ捨ても、実は世界の環境と繋がっていて、そこに意識を持つことによって、世界の環境のことを考えることになります。今回出された宣言によって、すぐに対馬からごみがなくなる訳ではありません。ただ、これまで、何気なくごみを出していた人、なんとなく空き缶を山に、海に捨てていた人たちが、分別してごみを出してくれる、空き缶をごみ箱に入れてくれる、その意識を持ってくれることによって、対馬からごみがなくなる日が近づいて来ると思います。世界から見れば、対馬は小さな島ですし、我々一人一人も小さな存在です。しかし、一人一人が動いていかなければ、世界が変わることはありません。

美しい対馬を、そして美しい地球を次の世代、その先に伝えていくために、私たちは取り組んでいかなくてはいけません。

政策企画課　財部 仁 課長

次回は、対馬でスタートしているごみゼロに向けた取り組みを紹介します。